



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 小林洋行  
コード番号 8742 URL <http://www.kobayashiyoko.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 細金 成光

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 渡辺 宏

TEL 03-3664-3511

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	1,885	68.0	△225	—	△161	—	16	—
25年3月期第2四半期	1,122	△37.0	△417	—	△389	—	△400	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 26百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △462百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	1.79	—
25年3月期第2四半期	△42.43	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	14,904	10,903	63.4	1,000.16
25年3月期	14,581	10,909	65.0	1,002.96

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 9,445百万円 25年3月期 9,472百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	2.50	2.50
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	—	—

平成26年3月期の配当につきましては、現時点において未定であります。

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

当社グループの主たる事業である投資・金融サービス業の業績は、商品市況、株式市況、為替相場等の変動に大きな影響を受ける傾向にあり、業績予想を行うことが困難であるため開示しておりません。それに代えて四半期毎の業績数値がほぼ確定した時点で速報値等の開示を実施いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	10,094,644 株	25年3月期	10,094,664 株
26年3月期2Q	650,196 株	25年3月期	650,147 株
26年3月期2Q	9,444,484 株	25年3月期2Q	9,444,497 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社グループの主たる事業である投資・金融サービス業の業績は、商品市況、株式市況、為替相場等の変動に大きな影響を受ける傾向にあり、業績予想を行うことが困難であるため開示していません。それに代えて四半期毎の業績数値がほぼ確定した時点で速報値等の開示を実施いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
4. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策及び金融政策の効果に対する期待感から株価の上昇や円高の是正が進み、景気回復に向けた兆しは見られましたが、欧米諸国の財政問題等による海外経済の停滞や新興国の景気減速懸念などによる下振れリスクを抱えており、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような経済状況のもとで、当社グループ(当社及び連結子会社)は、不採算事業や将来性の見込めない事業からの撤退を進めながら営業費用の削減に努めており、その効果が経営状況に表われ始めておりますが、大きく改善するまでには至っておりません。

当社グループの主たる事業である投資・金融サービス業におきましては、商品先物取引の投資環境の整備が遅れていることや投資マインドの冷え込みから市場の流動性の回復に時間がかかっておりますが、国際的な安全資産として市場を牽引していた金価格が4月から6月にかけて下落したことに伴い商いが膨らんだこともあり、国内商品取引所の総売買高は、前年同四半期と比較して9.2%増の28,434千枚と増加に転じました。また、フェニックス株式会社(旧フェニックス証券株式会社(前年同四半期の営業収益46百万円))を解散したことが減収要因となりましたが、値動きの激しかった金を中心として当社グループの委託売買高は前年同四半期より10.9%増加したことが受取手数料の増加へと繋がり、減収要因を吸収することができました。

生活・環境事業におきましては、生命保険・損害保険の募集業務に関しましては、ファイナンシャルプランナーとの連携等による顧客層の開拓を進めるなど、引き続き収益の拡大に努めました。

スポーツ施設提供業におきましては、圏央道市原鶴舞インターチェンジの開通によってゴルフ場への交通アクセスが向上したことを好機と捉え、集客率のアップへ向けた営業活動に取り組みました。また、不動産業におきましては、不動産販売及び不動産賃貸ともに良質な物件の取得に努め、積極的な事業展開を行いました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、営業収益1,885百万円(前年同四半期比68.0%増)、営業総利益933百万円(前年同四半期比8.0%増)、営業損失225百万円(前年同四半期は営業損失417百万円)、経常損失161百万円(前年同四半期は経常損失389百万円)となりました。また、投資有価証券清算分配金39百万円や投資有価証券売却益232百万円などの特別利益271百万円を計上しましたが、保有不動産の有効活用に伴う固定資産除売却損56百万円などの特別損失57百万円を計上したため、四半期純利益16百万円(前年同四半期は四半期純損失400百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① 投資・金融サービス業

当第2四半期連結累計期間の投資・金融サービス業は、業績の改善傾向が顕著となっている株式会社フジトミの委託売買高が増加したことから、受取手数料は689百万円(前年同四半期比11.3%増)となりました。また、自己ディーリング部門も持ち直し19百万円の売買益(前年同四半期比52.1%減)となりました。こうした結果、株式会社フジトミの業績回復に支えられる形で営業収益は709百万円(前年同四半期比7.0%増)となる一方で、依然として業績改善が鈍い子会社もあることから、不採算子会社を清算したことより経費負担が軽減したもののセグメント損失は90百万円(前年同四半期はセグメント損失298百万円)となりました。

#### ② 生活・環境事業

当第2四半期連結累計期間の生活・環境事業は、生命保険・損害保険の募集の受取手数料33百万円(前年同四半期比2.6%増)のほかに、平成24年6月より開始した映像コンテンツ配信業務の売上高30百万円(前年同四半期比6.0%増)が期初より加わった結果、太陽光発電機・LED照明等の売上高8百万円(前年同四半期比57.1%増)を含めた営業収益は72百万円(前年同四半期比8.5%増)、セグメント損失は35百万円(前年同四半期はセグメント損失15百万円)となりました。

#### ③ スポーツ施設提供業

当第2四半期連結累計期間のスポーツ施設提供業は、期初から堅調に推移していたゴルフ場への来場者数は、夏場は猛暑や台風の影響により伸び悩みましたが、営業収益は212百万円(前年同四半期比8.6%増)、セグメント利益は12百万円(前年同四半期比178.3%増)となりました。

#### ④ 不動産業

当第2四半期連結累計期間の不動産業は、販売用不動産の売却が進捗したことによって不動産販売収入が大幅に伸びました。また、平成25年1月より稼働している賃貸用不動産であるビジネスホテルの賃貸料収入が加わったこともあり営業収益は822百万円(前年同四半期比475.5%増)、セグメント利益は80百万円(前年同四半期比66.8%増)となりました。

⑤ その他

当第2四半期連結累計期間のインターネット広告業などの営業収益は68百万円(前年同四半期比27.9%増)、セグメント損失は16百万円(前年同四半期はセグメント損失19百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期末の総資産は、前期末と比べ323百万円増加し、14,904百万円となりました。これは主に有形固定資産の増加32百万円及び投資有価証券の増加302百万円によるものであります。

負債は、前期末と比べ329百万円増加し、4,001百万円となりました。これは主に、預り証拠金の増加263百万円によるものであります。

純資産額は、四半期純利益16百万円の計上及び配当金の支払23百万円により、10,903百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当社グループの主たる事業である投資・金融サービス業の業績は、商品市況、株式市況、為替相場等の変動に大きな影響を受ける傾向にあり、業績予想を行うことが困難であるため開示しておりません。なお、業績予想の非開示に代替する開示として、投資・金融サービス業の商品先物取引部門におけるグループ売買高を毎月公表するほか、四半期毎の業績速報値を公表することにより対応してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループの営業総利益の大半を占めている投資・金融サービス業におきましては、平成16年の法改正(平成17年5月施行)以降、低迷が続いている国内商品取引所の総売買高は、市場が活況であった平成16年3月期と比較すると平成25年3月期は82.0%も少ない56,226千枚と低水準にあり、引き続き厳しい経営環境に直面しております。当社グループにおきましても、当第2四半期連結累計期間は、営業損失225百万円(前年同四半期は営業損失417万円)、経常損失は161百万円(前年同四半期は経常損失389百万円)となっております。また、投資有価証券売却益などの特別利益271百万円を計上したため四半期純利益は16百万円(前年同四半期は四半期純損失400百万円)となりましたが、依然として営業損失、経常損失を計上している状況であります。

当社グループでは継続的な営業損失の発生という状況から早期に脱却するための改善策として、当社グループの営業総利益のうち、投資・金融サービス業による営業収益が大半を占めておりますが、なかでも商品先物取引の受取手数料収入が最大の柱となっており、顧客基盤の拡大が最優先課題となっております。同部門においては、信頼される資産運用のベストパートナーとして、インターネット等による情報発信力の充実に努め、お客様の理解度に応じた習熟度別セミナーやテクニカル分析などの投資スタイル別勉強会などを開催することにより、顧客数や預り資産の増加を図ってまいります。

投資・金融サービス業以外におきましては、生活・環境事業では、保険募集業務においては、ファイナンシャルプランナーのとの連携等による顧客層の開拓を、今後も継続して推し進めることにより、業容の拡大に努めてまいります。また、不動産業では、不動産賃貸につきましては、当社グループの所有不動産を賃貸することで安定した収益を確保しておりますが、更なる収益の上積みが期待される不動産販売におきましては、引き続き良質な物件の取得に努めてまいります。

これらのことを確実に実行し、キャッシュ・フローの改善へとつなげてまいります。

このように、上記の既に行っている施策を含む効果的かつ実行可能な対応を行うことにより、継続企業の前提に関して重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,430,503	4,317,147
受取手形及び売掛金	73,661	47,143
有価証券	115,587	246,882
商品及び製品	220,055	33,634
原材料及び貯蔵品	2,971	4,707
差入保証金	2,115,818	2,257,547
その他	867,256	917,132
貸倒引当金	△1,923	△3,810
流動資産合計	7,823,931	7,820,385
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,795,170	1,752,830
土地	2,047,665	2,130,379
その他	347,146	338,932
有形固定資産合計	4,189,982	4,222,142
無形固定資産		
その他	172,755	161,038
無形固定資産合計	172,755	161,038
投資その他の資産		
投資有価証券	1,881,505	2,184,379
その他	545,075	548,211
貸倒引当金	△31,761	△31,489
投資その他の資産合計	2,394,818	2,701,100
固定資産合計	6,757,556	7,084,280
資産合計	14,581,488	14,904,666
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,067	15,298
未払法人税等	21,141	14,797
預り証拠金	2,736,222	2,999,576
その他	196,205	262,964
流動負債合計	2,966,637	3,292,636
固定負債		
退職給付引当金	139,541	152,387
その他	516,672	507,724
固定負債合計	656,213	660,111
特別法上の準備金		
商品取引責任準備金	48,890	48,890
特別法上の準備金合計	48,890	48,890
負債合計	3,671,741	4,001,639

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	888,445	888,445
利益剰余金	6,523,396	6,516,667
自己株式	△454,348	△454,360
株主資本合計	8,957,493	8,950,752
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	514,922	495,207
その他の包括利益累計額合計	514,922	495,207
少数株主持分	1,437,330	1,457,066
純資産合計	10,909,746	10,903,027
負債純資産合計	14,581,488	14,904,666

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業収益		
受取手数料	653,041	723,702
売買損益	40,265	19,299
売上高	426,107	1,141,972
その他	2,610	273
営業収益合計	1,122,024	1,885,247
売上原価	257,893	951,662
営業総利益	864,131	933,585
営業費用	1,281,713	1,159,051
営業損失(△)	△417,582	△225,466
営業外収益		
受取利息	4,107	5,404
受取配当金	17,744	49,219
貸倒引当金戻入額	959	540
その他	8,149	9,761
営業外収益合計	30,960	64,926
営業外費用		
貸貸収入原価	589	652
匿名組合投資損失	232	—
持分法による投資損失	2,166	—
その他	19	—
営業外費用合計	3,007	652
経常損失(△)	△389,629	△161,192
特別利益		
投資有価証券売却益	10,726	232,266
投資有価証券清算分配金	—	39,498
関係会社株式売却益	29,909	—
役員退職慰労金戻入額	25,705	—
その他	12	159
特別利益合計	66,353	271,924
特別損失		
固定資産除売却損	392	56,658
減損損失	33,760	—
投資有価証券売却損	—	986
事業構造改善費用	17,328	—
その他	29,302	—
特別損失合計	80,782	57,644
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△404,058	53,086
法人税、住民税及び事業税	7,425	13,281
法人税等調整額	311	△332
法人税等合計	7,736	12,948
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△411,795	40,137
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△11,028	23,255
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△400,766	16,882

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△411,795	40,137
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△50,583	△14,000
その他の包括利益合計	△50,583	△14,000
四半期包括利益	△462,379	26,137
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△443,457	△2,831
少数株主に係る四半期包括利益	△18,922	28,968

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△404,058	53,086
減価償却費	35,663	32,058
減損損失	33,760	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	707	1,614
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△11,725	12,845
受取利息及び受取配当金	△21,852	△54,624
固定資産除売却損益(△は益)	392	56,658
投資有価証券売却損益(△は益)	△10,726	△231,280
投資有価証券清算分配金	—	△39,498
関係会社株式売却損益(△は益)	△29,909	—
売上債権の増減額(△は増加)	△678	3,459
たな卸資産の増減額(△は増加)	△475,333	212,809
差入保証金の増減額(△は増加)	△282,639	△74,421
委託者先物取引差金の増減額(△は増加)	△39,269	△122,653
預り証拠金の増減額(△は減少)	366,759	196,046
その他	△79,877	144,171
小計	△918,787	190,274
利息及び配当金の受取額	22,423	55,458
法人税等の支払額	△23,981	△22,920
法人税等の還付額	18,023	7,095
営業活動によるキャッシュ・フロー	△902,321	229,908
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△100,000	△100,000
定期預金の払戻による収入	650,000	350,000
有価証券の取得による支出	—	△20,000
有価証券の償還による収入	100,000	—
有形固定資産の取得による支出	△503,439	△164,384
無形固定資産の取得による支出	△126,665	△3,086
投資有価証券の取得による支出	△110,520	△540,261
投資有価証券の売却による収入	73,459	362,994
投資有価証券の清算分配による収入	—	57,648
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△12,324	—
敷金及び保証金の回収による収入	17,605	12,239
その他	△36,961	△16,486
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,847	△61,337
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	—	△12
子会社の自己株式の取得による支出	△11	△12
配当金の支払額	△23,611	△23,611
少数株主への配当金の支払額	△9,214	△9,214
財務活動によるキャッシュ・フロー	△32,837	△32,850
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△984,006	135,720
現金及び現金同等物の期首残高	2,665,653	2,505,035
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,681,646	2,640,756

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	投資・金融サ ービス業	生活・環境 事業	スポーツ施 設提供業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	662,995	66,696	196,005	142,888	1,068,586	53,438	1,122,024	-	1,122,024
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	65	36,831	36,897	3,438	40,336	△40,336	-
計	662,995	66,696	196,071	179,720	1,105,483	56,877	1,162,360	△40,336	1,122,024
セグメント利益又は 損失(△)	△298,089	△15,857	4,342	48,547	△261,057	△19,796	△280,854	△136,728	△417,582

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、インターネット広告業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△136,728千円には、セグメント間取引消去22,479千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△159,207千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「投資・金融サービス業」セグメントにおいて、平成24年10月26日開催の当社取締役会及び連結子会社フエニックス証券株式会社の臨時株主総会で同社の店頭外国為替証拠金取引事業を廃止する決議を行っており、同事業に係るソフトウェア等について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては、33,760千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	投資・金融サ ービス業	生活・環境 事業	スポーツ施 設提供業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	709,476	72,368	212,810	822,269	1,816,924	68,323	1,885,247	-	1,885,247
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	5	-	36,795	36,801	3,092	39,893	△39,893	-
計	709,476	72,374	212,810	859,065	1,853,725	71,415	1,925,140	△39,893	1,885,247
セグメント利益又は 損失(△)	△90,662	△35,828	12,083	80,968	△33,438	△16,145	△49,583	△175,882	△225,466

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、インターネット広告業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△175,882千円には、セグメント間取引消去6,371千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△182,253千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。